

Kenjiro Azuma

ドルドレヒト美術館の 2 人の彫刻家

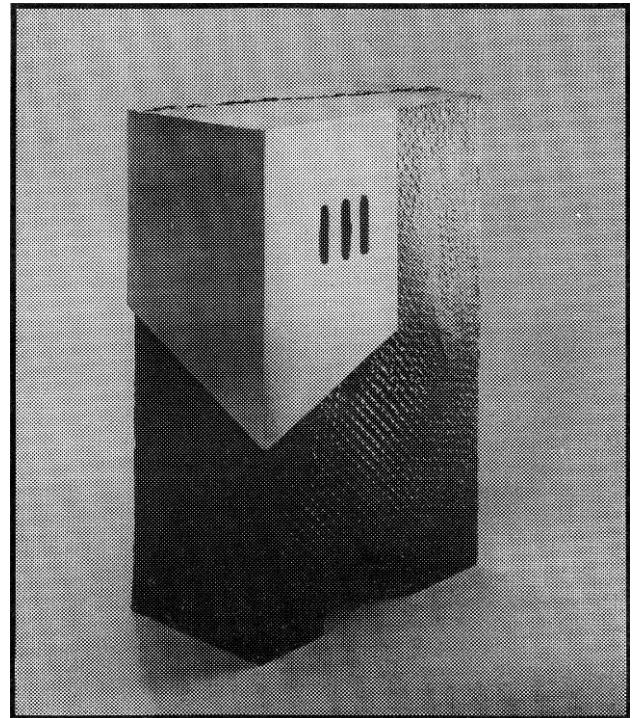
ブロンズの寸法。 木の啓示

ドルドレヒト美術館は東西フォーラムを取り上げ、日本の 2 人の彫刻家、吾妻兼治郎と角永和夫の展示を行います。前者は 1956 年以来ヨーロッパで暮らし、働いていましたが、後者は日本を離れることはほとんどありませんでした。

展覧会に付随するカタログでは、美術館の監督 J.M. ド・グロート：「両方のアーティストの作品の性格や素材が異なっている、距離がどれほど離れていても、彼らの文化的伝統とのつながりは、吾妻兼治郎と角永和夫の両方に表示されます。吾妻は 1926 年に東京から北へ 500 キロ離れた山形で生まれました。彼は、何世代にもわたってこの職業を実践してきた青銅の創設家族で育ち、寺院のために宗教的なオブジェを作りました。家族はまた、禅仏教宗派のメンバーでした。その後、禅がアーティストの作品に影響を与えたことが明らかになりました。

1950 年から 1956 年まで、吾妻は新しい三次元概念。徐々にボリュームを獲得する両面レリーフが作成され、少し後で不規則なブロック形状として説明できます。彼はまた、レリーフを曲げ始め、円錐形を作り出しました。

平らなブロックには不規則な輪郭があり、側面図に動的な効果を与えます。フロントは迷路のようなパターンが重なり合っており、側面に落ち着いた印象を与えます。しかし、彼は落ち着きがなく、常に有



益な緊張を求めて、吾妻は 1966 年頃に再び方向転換します。これからは、画像の前面と背面、最初と最後がなくなり、異なる構造が交互に現れる連続した等しい平面で構成されます。フォームは、アーティストと素材の対話において、その素材に対する彼の解釈と尊重から生じます。この調査、調査のための作業方法には多くの時間がかかります。その後、吾妻は突然、洗練されたエッジとサーフェスを導入し、地平線言語を強化し、垂直方向と斜め方向にグループ化された折り目、ふくらみ、カットを強化します。光と影の効果は、これらのコントラストをさらに強調し、画像の慎みを失わないようにします。1966 年から 1969 年の間に作成された画像は、空間、沈黙、およびそれらが放射する時間によって特徴付けられます。かなりの無料ネスが見えるようになります。これにより、東は観客が本質的な要素を把握することをより困難にするかもしれません。アーティストが表現することを許した連続的な動きにゆっくりと集中してのみ、これらの対照的なイメージの豊かさを体験することが可能です。最近の作業は一見単純そうに見えます。平

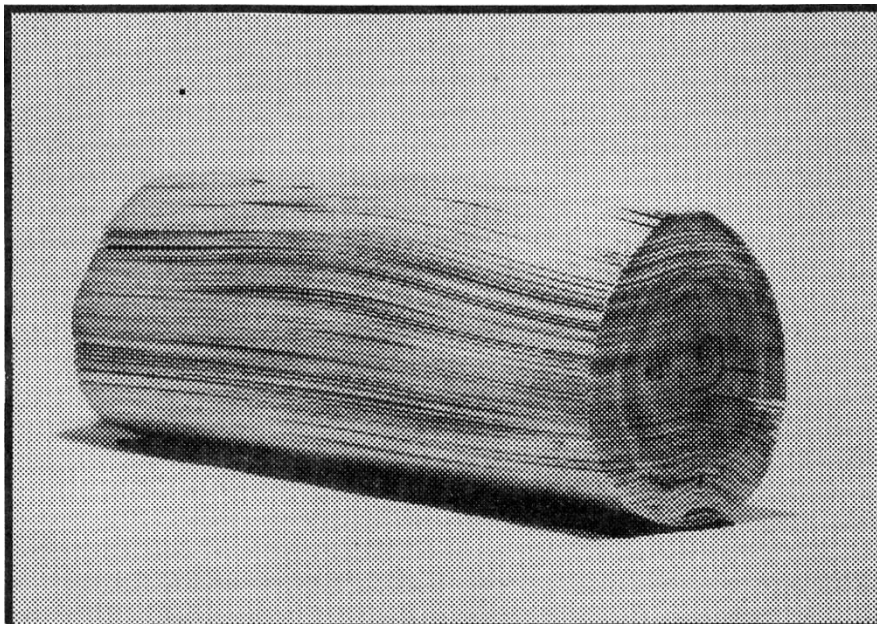
面は基本形状と上部境界の間で移動しますが、上部と下部は寸法も方向も等しくないため、2つの端点間に張力が発生します。現在もミラノに住んでいる吾妻兼治郎は、現在、ヌオーヴァ AC アカデミアディベリアルティで彫刻の教師を務めています。彼の作品は、1972年、1975年、1978年、1980年にハーグの Nouvelles Images ギャラリーで以前に展示されました。

角永和夫は日本在住で、日本語のみを話します。1946年、かつて武士で有名だった石川県で生まれました。彼は父が地元の森と製材所を所有していた家族で育ちました。杉は、寺院の建設や祭壇に使用される木材の一種であり、この木材にほとんど、神聖な地位を与えています。幼少期から、角永和夫はこれに精通している。

材料とその処理。

鶴来町に落ち着くと、デザイン言語をさらに探求する。1971年に、彼はポリウムを重視して長方形のブロックからオブジェクトを作成する彫刻家として彼の素材にまだアプローチします。2年後、最初の分割ログが作成され、1974年から前の前処理されたログの代わりに木の幹の粗い部分を処理しています。彼は別の形の切断を続けます。彼の意図はインタビューで彼は自然を明らかにすることであると云います。彼は2つの方法でそれを行います：まれた-フォームと自然のプロセスを尊重することによ

Kazuo Kadonaga



って。彼はこれらのアイデアを、彼が略して「ウッド」と呼ぶ、番号と文字のシリーズでさまざまな方法で表現しています。いくつかの胴体は、剣から鍛造された刃とともに約4インチの深さまで体系的に彫刻されています。時々、彼はトランクを紙の薄いスライスにほぐし、その後それらを元の形に戻します。角永は、すべての木材が置かれている環境に応じて裂けたり反ったりする生きた素材であることを強調しています。1981年、彼の作品はハーグの Nouvelles Images に掲載されました。クレラー・ミューラ美術館のコレクションは彼の作品です。

博物館

イーストウエストフォーラムの機会に、ドルドレヒトムーセムは間もなく初等教育の5番目と6番目のクラスと1番目のクラスのレッシンプランを公開します。レッシンレターは3つの「レッスン」で構成され、そのすべてが何らかの方法で扱われます。旧市街の郊外にあるビクトリア工場の廃墟がある次の土地このサイトでどんなことができるのか、どんな機能ができるのか、何ができるのか、とくに何ができないのか 要するに、子供たちはどのような解決策を見つけ、どのように描写するのですか？2番目のレッスンは、6人の日本人と6人の日本人に基づいています。現場で働き、彫刻全般を扱うオランダの彫刻家。3番目のレッスンは、6月末または7月上旬の（専門家の指導の下での）サイト訪問で構成され

ます。その時点で、12人のアーティストと一緒に作業することもしないこともある彫刻プロジェクトについて、すでにいくつかのことがわかります。レッシンレターに関心のある教師は、ドルドレヒト博物館の Ineke Voorsteegh に連絡できます。